

未来に生かす自然エネルギー

昌明先生指導

第一次指導

(子どもたちが席に着くと、挨拶をされ、授業の準備を指示し、始業の合図を待つ)

- じゃあ、改めて挨拶しましょう。こんにちは。
- じゃあ、改めて挨拶しましょう。こんにちは。
- しっかりした挨拶ですね。今日、明日、明後日と三日間、未来に生かす自然エネルギーと一緒に勉強させていただきます。よろしくお祈いします。

よろしくお祈いします。

- そのプリントというのは、前に渡されたんですか。

はい。

(下の教科書教材のコピー)

- 家で読んでみた人、手を上げてみてください。(全員挙手)
- はい、よし。みんな読んでみたね。読んでみてどうでしたか…。ちょっと難しい。ちょっと難しいことが書いてあるけど、六年生にすれば、ぜひ考えておきたいことだね。一緒に勉強すればよく分かると思います。

〈区画〉

- それじゃ、読んでもらおうと思います。開いてください。番号をつけますから、鉛筆を用意して。三十ページの最初の段落の「二十世紀には」のところが、1. 反対側のページ。後ろから五行目「私たちの生活には」、見つけた。そこが、2。(以下同様に)

1	p 30 L 3	二十世紀には、	2	p 31 L 10	わたしたちの
3	p 33 L 6	現在、	4	p 34 L 14	では現在、
5	p 37 L 7	大型の	6	p 38 L 10	では、
7	p 40 L 1	エネルギーの			

一 よむ

- 七つに分けて読んでもらいます。読む順番、決まっていますか。決まっていない。じゃあ、私が決めます。七人の人に読んでもらいますから、じゃあ、一番。(後ろ、左側から順に確認していく)
- 読む人は、立って、大きな声ではっきりゆつくり、後ろの先生方にも聞こえるように読んでください。それから、次の順番の人は、前の人がもう終わりそうになったら、立って準備していて、終わったらすぐ続けて読んでください。聞く人は、その本、ちょっと持ちにくいけど、持つてよく聞いてください。鉛筆は、今日、書くノートにはさんでください。
- じゃあ、一番の人、題を読んで1のところを読んでください。はい、お願いします。(五分経過)

(大きな声でしっかりと読む)

- はい。七人の人に読んでもらいました。ゆつくりはつきりと、お願いしたら、みんなしっかり読んでくれました。みんな立派でした。驚きました。難しい言葉がたくさん出てくるが、こういうように読んでらさずいぶん伸びます。(二一分経過)

二 とく

- 未来に生かす自然のエネルギー。(題名を少し中央寄りに板書)
- こういう文章でしたが、この中に出てきた自然のエネルギーと言ったら、どんなエネルギーですか…。分かったら、手を上げて。はい。
- はい。風力発電や…。
- おつ、風のエネルギー。風力ね。おう、よし。自然のエネルギーは。(板書 風力)
- 風がありました。後は、何がありましたか。はい。
- 水。(板書 水)
- 水もそうです。(板書 水)
- 水もありました。まだあるかな。はい。
- はい。太陽。

- 太陽もあります。(板書 太陽)
- まだあるかな。はい。
- はい。ええと、生ごみなどの…。
- うん。生ごみがあります。そうすると、何か難しい言葉で。
バイオマス。
- バイオマス。バイオマスというのでね、これは(板書 植物)植物を使う。
- こういう自然のエネルギー、未来に生かすのは自然のエネルギーで、今、現在は。(板書 現)
- どんなエネルギーが最も生かされているのですか。はい。
火力発電。
- おおつ、火力発電。そうすると、エネルギーとして使っているものは、何を使っているのですか。
石油。
- おおつ、大きな声でもう一回言つて。
化石燃料。
- 化石燃料。難しい言葉を先に。(板書 化石) どういうのが化石燃料。
石油。
- 石油がそうです。(板書 石油) まだありますか。はい。
石炭。
- 石炭。(板書 石炭) まだありますか。はい。
軽油。
- 軽油。軽油は、この中、どこから出てくると思う。間違いないですよ。どれの間。軽油は、石油、石炭のどっちの間だ。
石油。
- 石油。こっちの間に入ります。ここで言うものになるものは、石油、石炭、もう一つ。はい。
灯油です。
- 灯油。それもちよつと違う。はい。
- 都市ガス。
- うつ、そっちのガスの仲間を何といったかな。
はい、天然ガス。
- うん。手を上げて。はい。
天然ガス。
- 天然ガスというのがあった。これが化石燃料。今言ってくれた、例えば、軽油だったり、灯油だったり、それは、ここからまた作られるのですね。
- さあ、化石って言ったら、みなさん、どこにあるの。はい。
土の中。
- 土の中です。こっちの燃料は、土の中からどうやって使っているんだろう、土の中にあるものを。はい。
掘る。
- 掘るんです。これを掘り出して使ってます。じゃあ、自然のエネルギーの方はどうですか。あなたは、どう思う。
自然のエネルギーは、いろんな装置を利用して…。
- こっちは、掘り出すだよ。そうすると、
いろんな装置を利用して、自然のエネルギーを生かして使う。
- そういうことだね、よし。これ(板書 太陽)、特別掘ったりしなくても、太陽が射してきました。掘らなくてもあるでしょう。風、そのまんなまあるでしょう。そのまんなま使える。こっちは掘らなくてはいけない。
- じゃあ、今、たくさん使われているのは、どっちだったかな。
化石燃料。
- こっち(化石)を指し)だったね。どのくらい使われているって書いてあった、割合で。はい。
約九十パーセント。
- こちらは、九十パーセント。(板書 90%)ということは、自然のエネルギーは何パーセント。はい。
はい。十パーセント。
- 十パーセント。(板書 10%) 将来、これをどういう風にしたい。将

来は、この割合を…。符号でいい。

逆にする。

- 逆にするぐらいにしたいんだね。そういう話。このままこれ続けて行ったら、どうなるの。はい。

このまま化石燃料を使っていいたら滅亡。

- 滅亡する。だから、文章ですけれどね。生きるか死ぬかというように中身なんです。

- 七人の人に読んでもらったので。

(板書 直線を引き七区画に分ける)

(三二分経過)

〈手引き〉

- 生きるか死ぬかと、言ったけどね。よりよく生きようといろいろと工夫してきましたよ。それで、みなさん豊かな生活をしているのですね。読んでもらった1番から7番までで、よりよく生きようと思って、工夫したことや考え方などが、書いてあるので、それを探して書いてもらいたい。ノート開いてください。

- ノートの一番上に、線を引かなくていいからね。1番、2番、3番と、一マスに一個ずつ1番から7番まで番号を振ってください。

三 よむ 四 かく

- さあ、1番のところ、教科書見てください。1番のところ、これから人類が生き行くために、工夫しなくてはならない考え方が出てくるんです。何ですかね、これから大事にしていく考え方。門脇君。

はい。持続可能な社会。

- 持続可能な社会というのがあるでしょう。持続可能と書いてください。

(板書 持続可能)

- 二番のところ。何か工夫したことが書いてあるんだけど。工夫してできるようになったことが書いてあるね。昔は、できなかったけれど。漢字で二つ。そのままでは使えなかった。はい。

加工です。

- 加工です。加工ということができるようになった。それ、工夫だろう。

(板書 加工)

- 残りの七番まで、工夫したことを、探して書いてみてください。じゃあ、お願いします。

(机間指導後、板書)

(三六分経過)

- はい、時間ですから、そこまでにしてください。鉛筆をノートにはさんで教科書を閉じてください。みなさんは、とても大事なことを書いています。そのままにして、後は、家に帰ったらもう一度考え直して、思い出して書いてみてください。

(四二分経過)

五 よむ

- 順番だね。立ってね、これ、読んでください。

(元氣よく読む)

六 とく

- はい。加工って、分かるでしょう。これ、何かものを作り直すこと。さっきちよつと言ってくれた、例えば、軽油・灯油は、何を加工したものですか。

石油。

- 石油です。石油を加工したものです。これ、加工できるようになったのは、何が進んだから。はい。

はい。技術。

- 技術が進んだから。これ(技術に傍点)が進んだんです。技術が進んだのは、化石というようなレベルの年代から考えると、化石ができたのは何億年前。技術が進んだのは、いつなの。何年ぐらい前に技術は進んだの。技術が進んだからいろんなエネルギーの利用が急激に増えてきました。何年ぐらい前。図にかいてあった。はい。

百年ぐらい。

- 百年ぐらいです。百年ぐらいの間に一気に進んだ。で、大変な量のエ

エネルギーを使っているのは、こっち（化石）です。このままでは、人類は、持続は……。こう（持続可能の右に不を書きながら）なったら大変でしょう。だから、いろいろ工夫しましょうというのが、ここに書いてあるよ。

○ さあ、持続可能にするために、今やらなきゃならないのは何だ。この中で、今、私たちがしなければいけないのは、どれですか、持続可能にするために。はい。

はい。切り替え。

○ うん。切り替えをしなければならぬ。（板書）これは、考え方としてあっているんですよ。本当に、私たちが、今しなくてはならないことって何。はい。

実行。

○ 実行しなさい。いろんなこういう考え方があ。でも、実行しなければだめだと、この人は、言っているのね。

○ さあ、二番から六番の中で、自然のエネルギーのことが書いてあったのは、どこからどこまで分かる。どこからが自然のエネルギーのことが書いてあったかな。……。はい。

切り替え。

○ うん、切り替え。ここで切り替えたかったんです。切り替えて、自然のエネルギーが、ここから出てきます、確かにね。ここから、はっきりと自然のエネルギーのことが書いてあります。こっちは（二、三番を指して）化石エネルギーについて書いてありました。明日は、ここ。明後日は、こっちをやりませう。

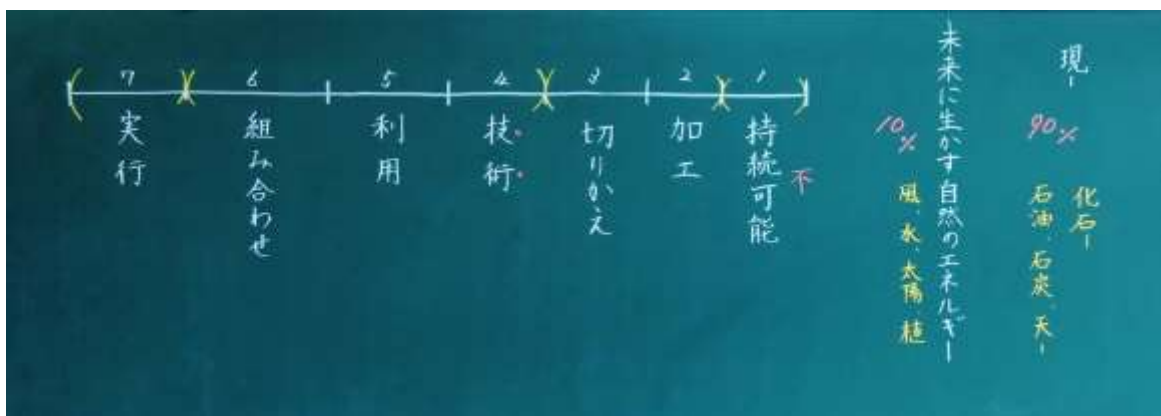
七よむ

○ じゃあ、読んで終わりにしますよ。腰を立てて、大きな声で読んで終わりますよ。はい。

（元氣よく読む）

○ はい、終わります。机の身を忘れないように。どうもありがとうございました。

（四八分経過）



第二次指導 第一時

○ (児童が着席すると、準備を指示され、合図を待つ)
おはようございます。

おはようございます。

○ 昨日、一時間勉強しました。昨日、家に帰って、教材、本を読んでみたという人いますか。おおう、全員。素晴らしい。手を降ろしてください。すごいね。また、今日いい勉強ができると思います。

一 よむ

○ 先ず、読んでもらいますが、昨日、あなたが黒板を読んでくれましたね。それじゃあ、大枝さんが一番。それから：(七名を確認) 七人の人に読んでもらいます。あつ、そうだ。今日は、時間が足りないんだ。失礼しました。1番、2番、3番まで読んで、7番に行きます。あなた、七番ね。こつちの人、明日ね。読む人は、昨日の様に、立って、はつきりゆつくり読んでください。次の人は、前の人が終わりそうになったら立って用意をしていてくださいね。続けて読むようにお願いします。

(落ち着いてしつかり読む)

○ はい、本を置いてください。四人の人に読んでもらいましたが、ゆつくりはつきり読んでくださいといったら、はつきりゆつくり読んでくれました。昨日の人も、よかったです。これで、一回りしたかな。みんな上手に読めることが分かりました。

(二二分経過)

二 とく

○ さて、ちょっと見ていてください。

(板書 直線と1900、2000)

○ 今年は、西暦でいうと何ですか。はい。

二十三年。

○ 二十三年です。そうすると、何世紀ですか。
二十世紀。

○ おつ、ちょっと行きすぎ。。。。じゃあ。

あつ、二十世紀。

○ じゃあ、千九百年から二千年までの百年を何世紀といいますか。はい、どうぞ。

二十世紀。

○ ここが二十世紀なのです。ここがね、(板書 20) 二十世紀なんです。そうすると、今、二十三年は、何世紀ですか。再挑戦、はい。

二十世紀。

○ 二十一世紀です。そうしたら、千九百年までの百年は何世紀だ。一緒にいいましょう。

十九世紀。

○ 十九世紀です。さあ、二十世紀になって大変増えてきたこと、大きく変わったことは、どんなこと。あなた達の生活に関係すること。この百年で大きく変わったでしょう。この勉強に関係すること、この百年で大変な変化がありました。

(板書 折れ線グラフ)

○ こんなグラフが：。エネルギー消費量です。十九世紀の終わりのエネルギー消費量は、世界全体では：。覚えている。はい。

一、八億トン。

○ 一、八億トンだった。(板書 1.8) ここ、一、八億トンの量だった。じゃあ、二千年になったら、何億トンになったの。はい。

九十億トン。

○ 九十億トンになっている。(板書 90) ちょっと、五十倍だね。トントンピンとこないでしょう。私も、どのくらいの量か分かりませんが、あまりに大きすぎて。一トンで千キログラム、その消費量がどのくらいか、すごい量ですね。

○ もう一つグラフがあったね。こういうのがあったね。(板書 円グラフ 四つに区分) これは、エネルギー源の方です。エネルギー源を表すグラフだったよ。一番使われているエネルギー源は何だった。はい。

石油。

○ 石油です。どのくらいか、分かります。

四十パーセント。

○ 四十パーセント。(板書 石油 40)

○ じゃあ、二番目、ここは。はい。

○ 石炭。

○ 石炭。いくらですか。

ええと、...

○ (板書 石炭) 石炭で、分かりますか。忘れました…。うん。はい。

三十パーセント。

○ ここ、三十パーセント。(板書 30)

○ そして、これが。はい。

天然ガスの二十パーセントです。

○ 天然ガスで(板書 天ー 20)二十パーセントです。残りは、全部

で百パーセントですから、ここは、(十パーセントと声あり)十パーセ

ントだね。(板書 10)

○ さて、こんなに増えたエネルギーの中でね。地下から掘り出している

のはどれぐらいか、パーセントで。地下から掘り出しているエネルギー

は何パーセントか。足りていたら分かるね。はい、鈴木君。

九十パーセント。

○ 九十パーセントは掘り出している。じゃあ、二千年で九十億トンだよ。

この後、エネルギー消費量どうなっていると思う。予想です、かいてな

いから。はい。

はい、上がっていると思います。

○ はい、私もそう思います。百億トンは超えているようです。

(板書 折れ線グラフを伸ばす)

○ 九十パーセント掘り出して行って、使う量がこのくらいです。ずうつ

とやって行けると思いませんか。行けると思う人手を上げて。(挙手 な

し) やっていけないと思う人手を上げて。(挙手 全員) そうですね。

○ やっていけないという理由にね。これ、なくなってしまうという以外

に、もう一つ訳があるんだよね。もう一つ理由があるんです。なんだか

分かる。こんな風に化石燃料を使っていたら、やっていけなくなる訳

は、何だか分かる。はい、山口君。

環境汚染。

○ 環境汚染です。環境汚染の問題と、それから、化石燃料をこんなに使

っていたら、なくなってしまう。

〈手引き〉

○ それが、詳しく書いてあるところがあるんですが、そこを書いて勉強

します。何番だったかな、そこを開いてみてください。

○ 何番ですか、そこが詳しく書いてあるのは。(3番という声あり) う

ん、3番ですね。3番のところを全部書いたら長すぎるので、ちよつと

鉛筆出して、印をつけてくださいよ。三三ページの九行目の真ん中、「化

石燃料は」って書いてある。化石燃料はというところから書き始めて、

次のページの二行目の一番上、「化石燃料がなくなってしまうのです。」

というところまで書きます。分かった。そこまで、ノートに書いてくだ

さい。(二三分経過)

三 よむ

四 かく

五 よむ

六 とく

(一斉に書き始め、終わった子は板書を見ている。板書後、

ノートを見て回る)

○ はい、じゃあね。鉛筆をノートに挟んで、教科書も閉じて、机の上に

重ねてください。

(四〇分経過)

五 よむ

○ 黒板に書いたことで勉強します。ええと、順番は、…、山口君ね。立

ってこれ読んでください。

六 とく

(落ち着いてしっかり読む)

○ はい、ありがとう。

六 とく

- これよく分かりませんというの、何かあります。大丈夫かな。大丈夫。二つに分けます。これ簡単ですね。どこで分かれるの。はい。一つといわれています。
- ここね。ここで（板書 ㄱ）分かれます。こことここ（板書 括弧）。さあ、前は、何のことをいつている。はい。
- 化石燃料を使うと環境問題にかかわってくる。
- うん、そうすると、環境問題です。一言で、これっていったらどれですか。はい。
- はい。環境への悪影響。
- よし、悪影響。環境への悪影響。この中の言葉でいったらどれ。はい。地球温暖化。
- これ、関係あります。地球温暖化ね。（傍点）同じことをいつているのはどれ。：環境の：。はい。
- 破壊。（板書 傍○）ということですね、前の方はね。後ろの方は、何だろう。
- はい、ええと、化石燃料がなくなる。
- なくなるってことです。（板書 傍○）なくなる。
- 後ろから考えてみます。近い将来なくなってしまう。近い将来って何年後ですか。この中身で、最も近い将来って何年後のこといつている。分かった、ここには書いてないんです。はい。
- 五十年後。
- 五十年後。うん、近い、その辺だね。でも、教科書の中では、何年後にと書いてあった。はい。
- 四十年後。
- 四十年経つと何がなくなるの。
- 化石燃料。
- 全部じゃない。四十年後になくなるものもある。はい。
- ええと、石油。
- 石油なくなるんです。四十年経ったら、みなさん幾つになる。

- 五十…。
- 五十、五十二。私よりもまだ十歳若い。そのぐらいのときに、これないんです。（円グラフの石油の部分消す）みなさんが、これぐらいのときになくなってしまう、といっているんですよ、この文章では。そうしたら、大変なことになるね。
- それじゃあ、前の方。前の方も二つに分けますよ。前、さらに二つに分かれます。どこで分かれるかな。はい。
- 化石燃料は、たいへん便利なエネルギー源なので、さまざまなどころで使われています。
- ここね。よし。（板書 ㄱ）ここまで（板書 括弧）と、後ろに分けられます。便利に使われていますよって。こっちは、原因だよ、破壊だよっていつているんだよ。
- 化石燃料、石油や石炭って、使われていますっていうんだけど、どうやって使う。うん、石油・石炭ってどうやって使うの。はい。
- 加工して使う。
- はい、その通りだけでも、これ使うときには、絶対しなけりやならないでしょう。：。この中で、漢字一字だったらどれ。却って難しくしたかな。：。はい。
- 燃やす。
- 燃やすんだよ。これね、燃やさないと駄目なの。（傍◎）ところが、燃やすと。はい。
- 二酸化炭素が出ます。
- 燃やすと二酸化炭素が出てしまうんです。（傍点）という問題があるんですね。これは、破壊につながるという説ですね。
- これ、ちよつと考えて。これ（円グラフ）、四十年後になくなる。これ、どう考えたらいんだらう。はい。
- 石炭や石油・天然ガスの使用量をおさえて、さらに、？増える。
- こつちが増えて行って、寿命が増える。それもいいです。そうなるよね、きつとね。後、何か方法ある。どうぞ。

○ はい、環境を、利用してやっている他の十パーセントのうやつを、えっと、石炭とかと、…。

○ うん。こっちの方を。
多くする。

○ 多くする。よし。そういうことをいいたいんだな。 (四九分経過)

七 よむ

○ はい、じゃあ、読んでおしまいになります。腰を立てて、これに合わせる。しつかり声を出して読んでください。

○ はい、終わります。また明日ね。 (礼)

ありがとうございます。 (五〇分経過)

(板書事項 写真参照)

第二次指導 第二時

(児童着席、準備を指示、読む順番を確認、始業を待つ)

○ じゃあ、みなさん、姿勢がいいですね。最後の授業になりました。朝の挨拶をします。おはようございます。

おはようございます。

○ はい。姿勢もいいし、挨拶もいいし、さすが六年生ですね。未来に生かす自然エネルギーというお話でしたけれども、また、家に帰って読んでみた人いますか。おおう、全員。すごい。素晴らしい。これ、下巻の教科書なのでね、一段と難しいところもあるんですが、今日もしっかり勉強したいと思います。

一 よむ

○ また、読んでもらいますが、一人休みなので、今日はね、題を読んだら、3番、4番、5番、6番、7番、そして、あなたは、黒板を読んでもらいます。

○ じゃあ、読む人は、題を読んだら3番を読んでください。後の人は、

順番に読んでください。聞く人、本を持ってしっかりと聞きましょう。はい、お願いします。

(五名とも、しっかりと読んでいく) (一二分経過)

○ はい。三日目、いい読みでしたね。最初からしつかりとした読みができる六年生でしたが、今日の五人の人も、しっかりと読めました。すごいですね。よかったですと思います。

二 とく

○ 一日目に勉強したこと、ちよつとね。 (板書 直線 四区画)

○ 1番のところ、持続可能ということですね。 (板書 1 持続)

○ 持続可能な社会にするために、今やらなければならぬことが7番に書いてありましたね。(板書 7 実) 2番と3番の所は、きのう、勉強しましたよ。(板書 2 3 化) とてもいい意見が出ました。化石燃料のこと。4番から6番、ここは、(板書 4 5 6 自) 自然のエネルギー。こういう文章でしたね。

○ これね、昨日の化石燃料のことで、本当によく考える六年生だなあと思っただすけどね、化石燃料というのは何か別名があったでしょう。はい。

使い切りエネルギー。

○ 使い切り。よく覚えていたね。使い切り。(板書 使い切り) 使い切りエネルギー源って、どういう意味。はい。

○ はい。化石エネルギー源は、燃やして使うものなので、一回使ったら、もう再生することは、不可能です。

○ いい説明ですね。使ってしまったらもう元に戻ってくれないんだね。作り直すことはいかないんだよ。じゃあ、自然のエネルギーの別名は、何っていうの。はい。

はい、再生可能なエネルギー。

○ はい、こちらは(板書 再生可能) 再生可能なんだ。これ、説明できる人。おおう、はい。

何度使っても、元が減らないエネルギー。

○ 元が減らないんですね、何度使っても。再生可能なエネルギーの方はどこにあるの。この、再生可能なエネルギーどこにあるかな。これ、どこにあるかな。はい。

身近にあります。

○ うん。身近にあります。どこにもある。使い切りの方は、どこにあるの。はい。

使い切りの方は、土の中にあります。

○ 土の中にあります。どこ掘っても出てくるの。どこ掘っても出てくる。はい。

化石燃料は、大昔の、化石が長い年月をかけてできた燃料だから、

どこにもあるわけではない。

○ あるわけではないんですね。どこにもあるわけではない。あるところしかないんだ。そういう違いがありますよね。

○ 今日はね、その、こちらのどこにもある方。こっちにしたいんだよね。どこにもある方を勉強するんですが、どうして、こっちにすぐに変えられないんだらう。

○ 使い切り、もうなくなってしまうんでしょう。そうしたら、もう、再生可能にみんな変えてしまったらいいのにねえ。どうして、直ぐに変えられないんだらう。どう思う。はい。

今使っている電気の量が、急に変わってしまうと少なくなってしまうから、ちよつと、今住んでいる人たちが、大変になってしまうからです。

ええと、切り替えるためには、太陽光発電の費用が掛かるし、あと、いきなり変えようと、大量の電力を生産できないので、電力の生産量が不足してくる。

○ はい。二人の話で分かったね。本当に大量のエネルギーが、億トンつて、すごいエネルギーを今使っているんでしょう。それを、一気にこれに変えるというのは、費用のこともあるしね。技術的にも大変な問題なのね。

〈手引き〉

○ でも、そこに挑戦した例が出ていますね。きょうは、その新しい挑戦をした例のところを書いて勉強したいと思いますが、実際に、やったことが書いてあるでしょう。そこ、ちよつと開いてください。何ページか。(三七ページという声)三七ページ、そこです。5番のところね。これ、どこの話ですか。はい。

山形県の立川町。

○ 山形県。お隣の県です。立川町。(板書 山形 立川町)ここは、ちよつと特別な、エネルギーがあるのね。何のエネルギーを使った話ですか。はい。

風です。

○ 風です。名前が付くくらい特別です。何という名前だ。はい。ええと、強風。

○ 強風。その強風があんまり強いので、名前がついている。何風。はい。ウインドファーム。

○ ちよつと違う。そこじゃない。風の名前だよ。清川だし。

○ 清川だし。(板書 清川だ)という名前がついた風を使ったね、挑戦の話を書きますので、鉛筆出してください。

○ 三七ページの一番後ろの行、「一九八〇年ごろ」というところから、三八ページ、一番おしまい、「七〇パーセント以上をまかっています。」ここまで。昨日、ノート見ましたけど、しっかりした字で書いていました。今日も、しっかりした字で書いてくださいね。はい、お願いします。(二三分経過)

三 よむ

四 かく

(一斉に書き出す。板書後、ノートを見て回る)

○ はい、みなさんのノートを見せてもらいましたが、しっかりした字でとてもいいと思います。

○ 黒板で勉強したいと思いますので、鉛筆をノートに挟んで、教科書を

閉じて、上に重ねて左上に寄せて置いてください。(三八分経過)

五 よむ

○ はい、それじゃあ、順番だね。立って、これ読んでください。

(元気に落ち着いて読む)

○ はい、ありがとうございます。

六 とく

○ 分からない言葉は、ないですか。大丈夫。わざわざ(傍線)。いいこと悪いこと。

悪いこと。(何人かが)

○ よくないこと。決意(傍線)は分かる。(口々に)手を上げて。はい。

はい。決意は、決めること、や、自分で…。

○ 自分で決めることね。自分で決める。それは、絶対だぞっていうことでしょう。後、大丈夫かな。これどうだ。めげる。(傍線)分かる、めげる。はい。

失敗しても、また、成功につなげる。

○ そう気持ちだということ、めげることなくというのは。じゃあ、めげるだけだと、どういう意味。はい。

めげるは、あきらめ…。

○ あきらめ。ず。

○ ず。めげるといったら、どっちだ。

○ あきらめる。あきらめる方がめげる。気持ち弱くなっちゃうのね。それが、めげる。ここは、めげることなく。もう大丈夫だな。

○ さてこれは、時間っていうかな、時で分けます。時が書いてあるね。時で分けたらどこで分ける。はい。

○ はい。ええと、風車(と)風に吹き飛ばされたこともありましたが。ここね、(ここで)板書(一)一つ。こっちはどこで分けられる。はい。

風力発電機を設置しました。

○ うん。ここだね。(板書(二))

○ これ(最初の区分)は、一九八〇年ごろ、今から何年前。(三十年という声)三十年…、三三年前ですね。三三年ぐらい前に、決意した。何を決意した。はい。

この災いの風を何とか利用することを決意した。

○ 利用する(傍○)ことを決意したんだよね。何とか利用する、災いの風。この風、清川だしというのは、どうして災いだかという…。はい。

冷たい風で、米が育たない。

○ 冷たくて、しかも…。強風だった。米が育たない。これ吹く時期が悪いんだね。冷たくて強風、それは、春から、(秋という声)秋。一番大事なところで、吹くのね。これ、災い。決意しました。決意してうまくいったのは何時だ。実際にうまくいったのは。はい。

実際にうまくいったのは、一九九三年だと思えます。

○ はい。ここ(一九九三年)はうまくいったんです。ここ(傍線)は、うまくいかないことがあったんですよ。でも、決意の気持ちの強さが、どこに出ているか分かる。町の人達の決意の強さが、どこに出ているか分かる。…。何とか決意した、災いの風を。決意の強さが、この中に出ているのね。はい。

大小合わせて十一基の風力発電機が並び、住民が使う電力の七十

パーセント以上をまかなっています。

○ はい、今は、こうなったのね。確かに、決意の結果なんです。だけでも、まさに、決意して、それが強いものだというのが、書いてあるんだけど。はい。

はい。ええと、強風のために故障など起こし、風車(と)飛ばされてもめげることなく頑張ったところです。

○ そうです。めげることなく。(傍○)一九八〇年から飛ばされても飛ばされてもめげることなく、頑張って頑張って、一三年経ってようやく、できたのが、百キロワット風力発電だね。で、今では、住民の、消費電力全体の、このくらいです。(七十パーセントに傍○)

○ これ、多いか少ないか。立川町は、化石燃料による電力はどのくらいになりますか。はい。

三十パーセント。

○ 三十パーセントよりも…。
少ない。

○ 三十パーセントよりも少ないっていうことだね。そうすると、ここ(一番を指し)で考えていることに少し近づいたのですね。

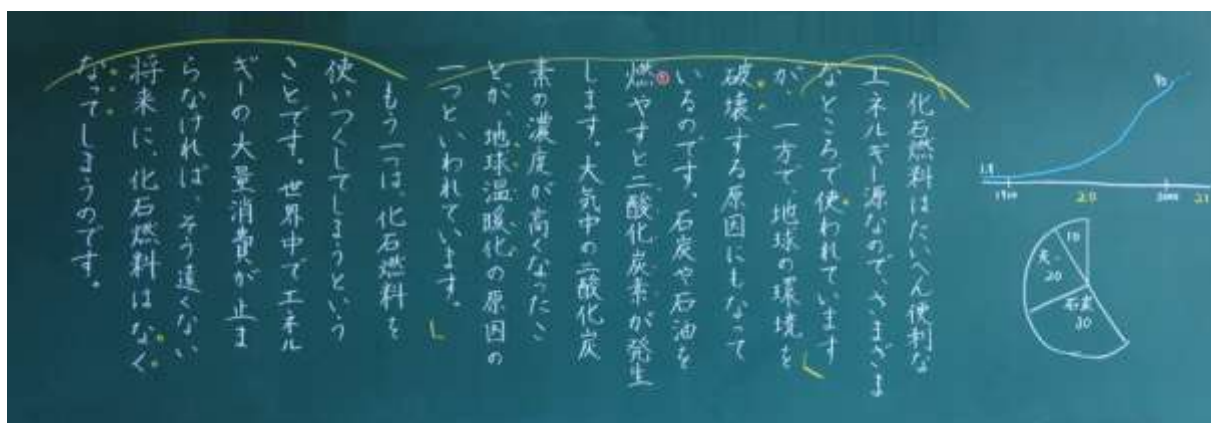
七よむ

○ はい、読んでおしまいにします。姿勢がいいね。一九八〇年頃、はい。

(鞭に合わせてしつかり読む)

○ はい、立川町では、風があつたので、これうまくいきましたけど、どこでもうまくいくという訳ではないでしょう。課題は、まだまだたくさんあると思います。担任の先生と二期しっかりと勉強してもらいたいと思います。これで終わります。さようなら。
(四九分経過)

(板書事項 写真参照)



第二次指導 第1時 ↑

第二次指導 第2時 ↓

